

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所 スマイスセレソンサポート田尻		公表日		7年3月14日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		利用時間を分散する事でスペースを確保している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		利用定員に基づいて職員を配置している。	手厚い支援が出来るよう職員配置については工夫していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	運動スペースや座って活動するスペースに分けている。また視覚的に利用児がどこに何があるか解りやすいように構造化している。	階段があるなどバリアフリー化が十分では無いが、必要時は職員が介助するなどの工夫を図っていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		サービス提供後に毎日清掃や次亜塩素酸ナトリウムによる消毒を行い、清潔な環境維持に努めている。	今後も清潔な環境維持に努めていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	2	パーテーションを設置するなど、落ち着きたい際に個別スペースを設けるようにしている。	限られたスペースの中でこども達が落ち着きたい際に、安心できるスペース確保にこれからも努めていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		支援の振り返りを職員全員で行いながら、業務の改善に努めている。	引き続きPDCAサイクルを取り入れながら、利用児や保護者様の支援に役立てていきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		自己評価表で頂いた意見を参考に事業所の改善に役立てていきたい。	今年度の評価表を配布しており、頂いたご意見を参考に業務改善に努めていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		職員会議等を通じて出た意見を業務改善に役立てている。	職員の意見を積極的に業務に反映できるような雰囲気づくりに取り組んでいる。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8	第三者評価は行っていない。	機会があれば実施する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		新任研修、県や市が実施している研修に参加している。	来年度以降も積極的に研修に参加し支援に役立ていく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		8	今年度作成し、公表予定。	児童の発達段階に応じ、参加したくなるようなプログラムを作成し公表する予定。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		利用児の通っている園とも連携しアセスメントし、保護者様から理解を得た上で支援計画は作成している。	引き続き、ご家庭での困り等の対応できるような支援計画を作成していきたい。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		支援計画は職員で話し合い課題を共有し、作成している。	今後も職員の意見を個別支援計画に反映させていく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		作成した支援計画は共有しいつでも閲覧できるようにしている。	個別支援計画についての振り返りの機会を設けつつ日々の支援を行っていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		「障害児の調査項目(5領域20項目)」を用いてアセスメントしている。また事業所独自のアセスメントを使用し行っている。	今後、より良いアセスメントツールがあれば取り入れていく予定。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		今年度作成分から順次「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」の項目を設定し作成している。	今後ご家族の困りであったり、移行先で困りが少なくなるような支援計画を作成していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		活動は職員で話し合いながら立案している。	今後も活動方針を話し合い、専門家の意見も取り入れながらプログラムの立案を行っていく。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		子ども達が飽きず楽しく活動できるように職員が日々工夫しながら支援している。	今後も子ども達が楽しく飽きないような活動を行う。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		小集団で出来る支援、個別活動で出来る支援を分けて作成している。	これからも集団活動、個別活動での役割を考えながら計画の作成を行う。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		支援前にその日の活動、役割を確認しながら事前打ち合わせを行っている。	内容を精査しながら効率的に打ち合わせを行い支援する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		支援後は職員で振り返りを行い翌日以降の支援に役立てている。	どのような支援が効果的なのか振り返りながら支援を行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		ケース記録をとり、1週間に1回職員会議を行い、どのような支援が必要か話し合っている。	支援の検証、改善を図れるような記録の書き方を工夫していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		モニタリングを定期的に行い支援計画の見直しに役立てている。	モニタリングは会議等を通じて職員と情報交換を行い、個別支援計画の見直しを行う。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		児童発達支援管理責任者以外の保育士や心理士も職員も会議に参画している。	児童発達支援管理責任者に限らず、今後も担当者会議に参加してもらう。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		隣接のこども園、幼稚園と情報共有できる体制を整えている。	来年度以降、療育機関と連携を強化しながら支援に反映させていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		隣接のこども園、幼稚園の担任と会議を行い、情報共有に努めている。	子ども達の状態をアセスメントしながら、利用日数を調整し移行支援を進めていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	3	保護者からの依頼があれば小学校を訪問し情報共有できるようにしている。	今後も必要性があれば就学先の小学校に移行していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		8	特に無し	療育機関とはリハビリの内容などの状況共有を図っている。今後連携を図りながら支援に役立てていく予定。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもも活動する機会があるか。	8		隣接の幼稚園、こども園の児童と同一のコートで遊んだり、地域の公園に出掛けその場にいた子どもと遊ぶ機会がある。	隣接以外の園とも交流する場を検討していく。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		連絡帳アプリやSNSを利用しその日の様子を細かく保護者に伝えている。	直接保護者と会話する機会を設け、細かい部分でも共通理解を図る場を設けていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		8	特に無し	プログラムとして実施はしていないが個別面談の機会を作り助言などを行っている。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		利用開始の際に説明を行っている。	変更などがあった際は説明を行う。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		定期的にあセスメントシートを配布し、保護者の意向などを聞いている。	今後も支援計画にこどもや保護者の意向が反映される様努めていく。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		支援計画作成後は保護者様に説明の場を設け同意を得ている。	今後も作成した際は丁寧に説明できるよう心掛けていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		不定期ではあるが必要に応じて心理士を交えた面談を行っている。	年間予定等を組み保護者に解りやすいように周知していく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		今年度は夏祭りを開催し保護者同士の交流を図っている。	来年度以降も交流の場を設けていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		相談があった際はすぐに対応できるようにしている。	今後も保護者から問い合わせがあった際は訴えを真摯に受け止め対応していきたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		新年度に職員紹介の文章を配ったりSNSを使用し保護者に連絡をしている。	今後も保護者と連絡が取れる体制を整備していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		利用契約の際に個人情報や肖像権の同意書を頂いた範囲内で使用している。	今後も個人情報には配慮しながら施設運営をしていく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		こども達に何かを伝える際は、言葉だけで伝えるのか、視覚的に伝えるのかを常にアセスメントし伝え方に配慮している。	どの様にすればしっかり情報が伝わるのか常に考え対応していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		今年度は地域への行事は行っていないが、地域の職業訓練校のスクールに参加させてもらった。	来年度移行、地域住民を招待できる行事を考えていきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		マニュアルは作成されているが家族への周知は行っていない。	保護者に周知をしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		BCPは作成中だが定期的な訓練は行っている。	今後も防災、防犯訓練などは定期的に行ってい、保護者に連絡帳アプリ等で伝えていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		服薬やてんかん発作等の情報共有は保護者にしっかり確認している。	今後も定期的に服薬確認を行う。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		利用開始前に食物アレルギーについての確認を行い職員間で情報共有しており、食事の際は配慮している。	アレルギーの状態については、保護者面談や各会議等で把握し対応していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全計画は作成しており、訓練研修は実施している。	今後も安全管理を十分に行った上で支援をしていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	6	保護者への周知はしていないが安全計画は作成している。	今後、安全確保への取り組みを周知するよう努めていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハットや事故報告書、苦情相談について書面に残し再発防止に努めている。	今後もヒヤリハットを職員で共有し、安全安心な施設運営を図っていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止研修に参加する機会を設けている。また参加した職員が報告書を作成し、職員に内容を周知している。	今後も研修の機会を増やし対応の在り方をしっかり周知していく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		現時点で身体拘束を行う児童の利用は無い。	今後、必要性が生じた際は個別支援計画に記載し組織的に取り組んでいく。	